

洪武朝日記釋

三



紫式部日記

紫式部日記 叙三の巻

みせちは九日にまわす

みせちとは毎年土月中の卯日、新嘗祭（その年の新穀を帝に献上する。諸神にたてまつる）

と。又うくそふきてみせちと此と云ひ。新嘗祭の定真一代一度の

大嘗会（後世、踐祚のち行をふくむを大嘗会と云ひ。毎年行をふくむを新嘗会と云ひ）にそふ人、新嘗会に

は四人なり。（その中、若相公は交見封事にならざるを河海抄。こととはつ子の新嘗

会なれば、みせは四人なり。（その中、次いでさてこの祭のねころは、江家次女

河海抄等に、本朝月令を引て、淨海原、天皇池、吉野宮にたえ

はるに、神女天降りて、祭をまひたすに、または袖を奉りて

はるに、神女天降りて、祭をまひたすに、または袖を奉りて



ぬきよふと見えたり 大の姿見にそそ されとこけいこをうたふこと  
ゆてまとは續日本紀天平十五年五月甲子西三つくぬきよを  
申し給へり一時的詔詞ふりて天武天皇禮樂を申て上下を調ふ  
て給えたるゆきを給へり契沖法師吾部大人を申て今所材  
杖百人一首ういよをい給ふましく申へられう海に右の本朝月令  
宮の元は古事記の推畧天皇吉野宮に申て海に右の皇女小孫を  
まきめ給ひしゆきをうて依れぬものと名申らる古事記傳小  
孫たりとて申へりあうのつとて寛弘六年十月廿日申てすをえ  
ら申の丑日なりこの日を帳臺試ふして常服との歩なり  
なりそれを常常寧殿に申てなり申て申覽せしなり

傳實成 後寧おにすの服のゆき掛くをうつえ給

傳實成 後寧おにすの服のゆき掛くをうつえ給  
侍傳小行成ゆきにいひつとをりこれに公季子の實成寧お  
なりと見え初皇女に傳後寧おとる内大臣の實成寧おをへ  
し又内のおの最寧おをももたれをなり後拾遺集のそ  
細少と見えたりいひつと今わしためつとて常服とのうち實成  
ゆき一人いしゆきなりその装束を申て申文のゆきなりしとて  
てつと見え給へり

兼隆 傳後寧おのあせらふつと申されなつと見え給へり  
小たさよのいきてん系梅の枝をうていよと見えたり  
兼隆ゆき一人いしゆきなりその装束を申て申文のゆきなりしとて









とあふがうと原のあぢいれうーとさうだをやりかへるえ申ふとあひてこ  
 こふ又かうと原のはだけとまゝふひてを文のつたなーこれつ  
 くぢふあははさるゝさあひつとさあぢいをこくうひ  
 うめたなこーとせられを新嘗祭のあまの真おあえられなり。  
 さなをよのうーとさあぢいをさるゝとさあぢいをさるゝとさあぢい  
 あしたけまひとんとあはあぢいの傳よの才のたけなり。こや  
 いはあふりやうにでチ鄙いのうさう。人おれははぢの人のふれは  
 とさうの人のさためなり。さうとさうとあぢいをさるゝとさあぢい  
無隆卿  
 右岸お中ねのあぢいさうはこなり。いすぢいのおさうとさあぢい  
 たうぢいさういなりと人けあむなりー

いすぢいさうは候後のうちけに女なり。ふとら。肥太りななり。さうい  
 ぶりや。鄙いと同一くお中めさたうぢい。けあむをさるゝと  
 てが。笑ふぢい。ふとら。さうとさあぢい  
寶成卿  
 さては右岸おのれまひに。さあぢい。くふことなり。うーとさ  
 人あり。又いさーのまにれらーとさあぢい。たさぬめつぢい。  
 あたりうぢいおれさうぢい。はんと。さうとさあぢい。ほりけ  
 にええ。さうとさあぢい  
 此の傍に。今あつためつ。さうい。おあぢい。さうとさあぢい。この  
 衆内大臣の清子に。弘徽殿の女侍の。いせうとさあぢい。おれさ  
 ぬあぢい。うーとさあぢい。おれさ。さうとさあぢい。さうとさあぢい。













候。江家次第曰。元日々々。重帽額舞臺ナド。下引候ヲ。水引申候。是ハ船  
引候ヨリ。出タル各目ニテハ。有テシク候ヤ々。畢竟帽額水引ハ。高下テ  
カヘタルハカリニ候云々。錦ヲ用候ヲ。錦額申候。簾ニモカケテ申候云々。  
及たり。右のほ。江家次第。新舞臺に。構立舞臺云々。其東西北面懸豆帽  
額。なとも。又枕蓑子にも。かろのすは。すて。こまね。おろち。た。こ。い。あ  
し。こ。や。や。い。あ。けて。あ。ひ。す。は。す。は。に。な。る。は。又。ま。の。ま。か。ろ。の。あ  
さ。や。な。す。の。と。の。う。う。ら。ん。の。と。な。ふ。又。こ。い。の。ま。か。ろ。の。あ。け。た。な。と。こ。い。あ  
た。る。流。簾。に。く。け。る。た。さ。ふ。お。は。さ。さ。な。る。お。ろ。ち。と。こ。い。あ。さ。や。な。す。の。と。の。う。う。ら。ん。の。と。な。ふ。又。こ。い。の。ま。か。ろ。の。あ。け。た。な。と。こ。い。あ  
こ。い。あ。さ。や。な。す。の。と。の。う。う。ら。ん。の。と。な。ふ。又。こ。い。の。ま。か。ろ。の。あ。け。た。な。と。こ。い。あ  
な。く。こ。い。あ。さ。や。な。す。の。と。の。う。う。ら。ん。の。と。な。ふ。又。こ。い。の。ま。か。ろ。の。あ。け。た。な。と。こ。い。あ

似うらまはせ。を。信。信。と。の。あ。う。ち。高。ま。を。い。は。し。け。ら。ら。い。た。本。の。な。さ。な。り。さ  
こ。い。あ。さ。や。な。す。の。と。の。う。う。ら。ん。の。と。な。ふ。又。こ。い。の。ま。か。ろ。の。あ。け。た。な。と。こ。い。あ  
ま。い。今。の。世。を。さ。さ。り。な。る。もの。な。り。ま。い。こ。い。の。ま。か。ろ。の。あ。け。た。な。と。こ。い。あ  
お。ろ。ち。と。こ。い。あ。さ。や。な。す。の。と。の。う。う。ら。ん。の。と。な。ふ。又。こ。い。の。ま。か。ろ。の。あ。け。た。な。と。こ。い。あ  
う。ら。ぬ。と。こ。い。あ。さ。や。な。す。の。と。の。う。う。ら。ん。の。と。な。ふ。又。こ。い。の。ま。か。ろ。の。あ。け。た。な。と。こ。い。あ  
ほ。し。て。こ。い。あ。さ。や。な。す。の。と。の。う。う。ら。ん。の。と。な。ふ。又。こ。い。の。ま。か。ろ。の。あ。け。た。な。と。こ。い。あ  
さ。た。は。あ。さ。や。な。す。の。と。の。う。う。ら。ん。の。と。な。ふ。又。こ。い。の。ま。か。ろ。の。あ。け。た。な。と。こ。い。あ  
て。ふ。う。う。ら。ん。の。と。の。う。う。ら。ん。の。と。な。ふ。又。こ。い。の。ま。か。ろ。の。あ。け。た。な。と。こ。い。あ  
う。う。ら。ん。の。と。の。う。う。ら。ん。の。と。な。ふ。又。こ。い。の。ま。か。ろ。の。あ。け。た。な。と。こ。い。あ







たむのうとれううそのあをぬあうつるをみのうさこをうとせ入たふ實成  
 相郷れううあふろをさせこつえれうう衣小あをぬをたしえ  
 ーきたる祢たけなりううそのあたをひううはいと満ほふそる左に  
 丹波古え業をなうーあふぬうあをぬあうつるをみの花を解ほに白椽小  
 二又ありあせさ青又ありさ赤又ありとるたりまうそあふろを赤  
 白椽せこれと汗衫なうーさみえ童女のうふさうとれなり水干のう  
 せやうなるとれなりと湖月抄の舞臺にるなりうれ侍ほ今ありためつ  
 赤もつえ陪送のうらなりあせぬをさ青又え胡曹抄小麴塵袍号青  
 また湖月抄舞小まふえ麴塵なとこのふとるて帯れ侍袍のまう  
 れとれなりせれを衣にして着たなりこれなり乃下仕さるものを

もさうとるたり。業を抄と申たふさやてあふ引きたる文ふふたり。ほたあに業をの傳小祢れううさぬとるさう。これれう下  
 仕の身れほとて麴塵をうも衣衣にして着たを祢たけなりとて  
 なり行えし引えしなふいんうと丹波古の陪送のあふ引うて  
 うこのをさせたるをいふとあとの文のういふとてさうて着るやうに  
 とせ申すと衣衣をさうて着るとえあううは初業に赤もつ  
 えのうう衣小あせぬをさせなほとたし一祢たけなりとうけり我や  
 すうふをせたるさう六信を義人なはさううて枕草子めてたさ  
 中祢條小お後の義人うをほめてたれううと君をたしとえ一と  
 三信えぬあやなりとれをふほうをさしたあせぬらすたなといとめて  
 たらなりとつをえて祢たけなりとてさうをさし一とてさうのうら

もまゝこゝしえ丹波守の童女のうち一人をひつるを。さるる丹波守の童乃。  
 まゝ白椽をせうとせひたふ。それうと。なまの海さうと。神さけ  
 なる。といひて。なまの海さうと。なまの海さうと。なまの海さうと。  
 予れえ丹波守の。さるる童女。一人を。海さうと。なまの海さうと。  
 うたはま。と。なまの海さうと。なまの海さうと。なまの海さうと。  
 く。ま。文。字。ひ。と。う。ち。ま。の。さ。る。る。童。女。一。人。乃。う。ち。ま。の。さ。る。る。童。女。  
 さ。る。る。上。の。ま。の。さ。る。る。童。女。一。人。乃。う。ち。ま。の。さ。る。る。童。女。  
 へ。さ。と。せ。

へさとせ

兼隆卿

髪

蒲萄漆

中へ申志く。く。心。あ。ら。う。海。さ。る。る。童。女。一。人。乃。う。ち。ま。の。さ。る。る。童。女。  
 七三

世のやうは。身。の。長。の。ほ。ろ。く。ま。の。さ。る。る。童。女。一。人。乃。う。ち。ま。の。さ。る。る。童。女。  
 おの。と。ひ。つ。の。さ。る。る。童。女。一。人。乃。う。ち。ま。の。さ。る。る。童。女。一。人。乃。う。ち。ま。の。さ。る。る。童。女。  
 ま。の。汗。移。お。引。た。う。ち。ま。の。さ。る。る。童。女。一。人。乃。う。ち。ま。の。さ。る。る。童。女。一。人。乃。う。ち。ま。の。さ。る。る。童。女。  
 さ。る。る。上。の。ま。の。さ。る。る。童。女。一。人。乃。う。ち。ま。の。さ。る。る。童。女。一。人。乃。う。ち。ま。の。さ。る。る。童。女。  
 い。ま。を。深。れ。う。ち。ま。の。さ。る。る。童。女。一。人。乃。う。ち。ま。の。さ。る。る。童。女。一。人。乃。う。ち。ま。の。さ。る。る。童。女。  
 せ。ま。し。

う。如おえあぬうと見申れ

府へ傍午の奥なる。新張雜要抄。兼脈と。言ふあり。是にて。ちかう。松  
府か入し。それを。為人の。とらえ。いふ。けり。に。ち。あ。む。く。友の。解の。こ。を。ほ。う。を  
了。な。め。し。と。し。に。ま。これ。を。装束の。うち。此。一。種。を。れ。を。ま。を。あ。へ。ら。を。あ。  
に。も。あ。む。ま。ま。く。く。く。ま。た。を。ほ。よ。あ。を。ま。は。は。降。あ。入。は。ほ。ほ。と。て。お  
と。う。の。ま。や。あ。い。ん。ま。は。ま。此。江。原。ん。ん。は。い。う。な。と。て。て。を。ほ。ま  
ま。こ。う。の。あ。り。て。う。ほ。う。の。ち。あ。う。ま。ほ。な。と。の。た。ほ。つ。を。ま。う。た。と。あ。れ。を。な。ん  
し。ん。と。な。け。や。と。は。お。人。の。ま。ふ。う。あ。ら。小。や。て。ま。ま。を。ま。て。裁。ん  
と。て。これ。ら。う。な。け。や。を。ふ。や。て。ま。今。い。て。同。く。て。な。け。や。う。ほ。な  
り。如。お。え。ま。な。け。や。ま。ほ。ま。や。て。ま。の。う。う。ん。を。う。け。お。裁。ん。て。な

けや。え。あ。ま。う。ふ。う。す。だ。れ。い。う。な。ぬ。ま。ほ。の。お。の。ま。ん。し。ま。は。に。ま。あ。ぬ  
ま。ぬ。り。ふ。と。新。が。に。ら。

ま。ぬ。り。を。こ。れ。ら。や。う。や。て。ま。お。ら。と。ゆ。い。又。な。て。ま。ほ。ら。ひ。あ。く  
え。う。の。お。持。う。し。う。う。ほ。ま。に。ら。い。ん。と。は。は。ひ。ひ。ひ。ま。は。

ま。ぬ。り。の。或。解。の。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。  
ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。  
ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。  
ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。

ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。  
ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。  
ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。  
ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。  
ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。  
ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。  
ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。  
ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。  
ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。  
ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。ま。ぬ。り。を。い。う。

ていし降きお武郡の今身れくをひつ視て舞姫のうしをなまね  
らむお武郡の今身れくをひつ視て舞姫のうしをなまね  
お武郡の今身れくをひつ視て舞姫のうしをなまね  
お武郡の今身れくをひつ視て舞姫のうしをなまね  
お武郡の今身れくをひつ視て舞姫のうしをなまね  
お武郡の今身れくをひつ視て舞姫のうしをなまね  
お武郡の今身れくをひつ視て舞姫のうしをなまね  
お武郡の今身れくをひつ視て舞姫のうしをなまね  
お武郡の今身れくをひつ視て舞姫のうしをなまね  
お武郡の今身れくをひつ視て舞姫のうしをなまね

すーとくをなうとくをなうとくをなうとくをなうとくをなう  
お武郡の今身れくをひつ視て舞姫のうしをなまね  
お武郡の今身れくをひつ視て舞姫のうしをなまね  
お武郡の今身れくをひつ視て舞姫のうしをなまね  
お武郡の今身れくをひつ視て舞姫のうしをなまね  
お武郡の今身れくをひつ視て舞姫のうしをなまね  
お武郡の今身れくをひつ視て舞姫のうしをなまね  
お武郡の今身れくをひつ視て舞姫のうしをなまね  
お武郡の今身れくをひつ視て舞姫のうしをなまね  
お武郡の今身れくをひつ視て舞姫のうしをなまね  
お武郡の今身れくをひつ視て舞姫のうしをなまね

侍従 實成卿 實成卿 實成卿 實成卿 實成卿 實成卿 實成卿 實成卿 實成卿

















さふ内日たるのけえひうちつけおましく一さむの日の夜のごうかく  
いけおをうらうらうらやうなう屋上人などいふなごうつれく  
なうん

いころを昔より辰日あうまをいふうちつけおをサシアタリテのなわう  
けいひの下にそとつれをいふこの日卯辰あ口のうちこそ辰日あ  
あうんごうらうらうら次お有辰の辰日あのとそとつれを辰日あ  
試集と申とておをいふまてこは河海抄お臨時祭調集十一  
月午日於北陣講假屋有儀式有饗膳勸盃等拾及抄お十一月下  
未日賀茂臨時祭試集なとそとつれ辰日の辰日あのとつれを辰日あ  
あうん午未日おはるいとありてつれをいふ辰日あのとつれを辰日あ

辰日あのとつれを辰日あのとつれを辰日あのとつれを辰日あのとつれを  
ふとそとつれを辰日あのとつれを辰日あのとつれを辰日あのとつれを  
調集と申とて辰日あのとつれを辰日あのとつれを辰日あのとつれを  
うらうらおとつれを辰日あのとつれを辰日あのとつれを辰日あのとつれを  
にいふとておをいふまてこは河海抄お臨時祭調集十一

たの松のこさんにちまへこたをいふせほひ一おは女房申さされ  
てほをなくとほりあうらつれを辰日あのとつれを辰日あのとつれを  
おうらおとつれを辰日あのとつれを辰日あのとつれを辰日あのとつれを  
やすしおを辰日あのとつれを辰日あのとつれを辰日あのとつれを辰日あのとつれを  
わうにいふとつれを辰日あのとつれを辰日あのとつれを辰日あのとつれを



り。下。十月廿八日。下の圖はあり。松中。頼中。の信。信。教。通。と。あ  
ら。ふ。へ。し。それ。後。拾。遺。集。に。二。宗。あ。た。政。大。臣。才。お。お。信。り。て。宗。の。つ。い。り  
何。ぞ。に。と。る。に。て。あ。へ。し。の。ら。た。政。大。臣。あ。て。大  
二。宗。國。由。と。し。ひ。と。し。  
持。の。日。え。れ。お。ひ。を。な。し。は。度。い。の。わ。せ。を。結。了。う。ん。た。ち。の。も。と。い。人  
け。さん。た。ち。を。こ。ろ。う。て。ら。一。般。ほ。せ。度。に。た。り。い。と。も。の。こ。ろ。う。に。け  
て。い。たり。

持。の。日。い。り。圖。日。を。う。お。ひ。を。の。二。の。事。に。い。う。と。い。人。を。信。の。宗。の。衆。人。を。う。い  
お。つ。の。を。う。い。人。の。内。裏。に。よ。の。わ。す。る。と。あ。て。宗。あ。中。に。馬。頭。友。成。が。あ。り  
と。い。い。に。こ。ろ。ん。と。し。ま。わ。り。な。と。も。あ。り。な。り。ま。て。こ。ろ。い。お。あ。の。上。の。り  
和。宗。に。う。さ。え。ん。の。ま。に。か。り。ぬ。ま。持。の。日。内。の。い。の。も。を。な。し。と。よ。と。

う。ん。た。ち。と。い。い。人。乃。君。た。ち。と。い。い。小。こ。ろ。う。結。了。と。あ。り。な。り。ら。一。般。  
お。お。い。り

は。と。め。て。う。ち。の。ね。ほ。い。と。の。い。信。宗。こ。の。と。の。と。す。わ。い。ん。か。さ。し。と。う。せ。て。い  
に。け。ら。あ。り。そ。こ。お。た。ふ。あ。り。う。の。ま。う。は。こ。を。す。急。な。り。か。こ。ね。い  
い。ま。て。ち。ん。の。く。し。白。う。の。う。う。え。な。と。つ。れ。の。君。の。び。ん。と。せ。結。了。へ  
さ。け。し。と。あ。り。たり

は。と。め。て。い。信。宗。あ。り。た。の。い。た。く。あ。き。ほ。と。を。い。り。内。大臣。い。り。宗。公。に。て。実。成。を。弘  
徽。度。の。女。侍。な。と。い。い。又。な。と。い。い。は。い。り。あ。り。そ。こ。は。お。お。殿。を。と。い。い。て。こ  
な。た。ら。う。つ。ら。と。あ。り。な。り。そ。こ。こ。の。様。の。お。れ。を。い。い。て。一。日。の。返。事。に。れ  
こ。せ。た。ら。う。と。い。い。そ。こ。は。草。子。を。い。い。り。の。お。れ。を。い。い。り。う。う。い。い。と。あ。り。な。り。後。小

て。和名抄に。搽鬚所引理髮。或曰。搽鬚和名如美質岐。と云て。うやとやと。  
びんうせきといひ。さてこの鏡。櫛。搽鬚の三種。いづかのふた使の君の。またち  
つらう。清ん。水うにと。いひ。んやて。わこせたるをへ。  
えこ。ふた。ふあ。てに。うち。ひて。た。い。け。け。ぬ。す。な。め。う。さ。ご。ふ。た。つ。に。  
ちて。あやふ。

そこのふた。そのすゑ。た。さ。ま。う。一。袋。の。ふ。た。き。う。あ。て。い。松。の。産。品。の。中。に。い。わ。へ。  
け。華。の。う。を。い。ろ。く。考。へ。て。つ。う。う。さ。海。を。と。り。に。う。ろ。て。い。え。れ。な。つ。と。  
も。げ。ふ。さ。う。な。う。一。と。な。う。け。き。は。あ。お。え。省。な。る。を。要。一。さ。海。い。の。書。を。  
え。て。う。へ。一。う。ち。ひ。た。と。い。ふ。ふ。一。た。に。う。あ。く。ん。あ。あ。と。わ。う。の。以。衣。え。こ。  
ら。ふ。を。う。ち。ひ。て。と。る。な。り。同。一。海。を。一。一。和。名。抄。に。い。こ。の。そ。の。う。ち。

に。い。わ。て。あ。一。工。を。う。た。た。い。と。え。な。り。け。の。区。子。と。い。一。さ。ま。い。け。と。よ。み。  
一。区。の。な。り。さ。ご。ふ。た。つ。ち。て。は。う。け。華。の。に。う。け。ぬ。ふ。文。の。さ。海。の。給。  
や。に。ま。う。い。て。ま。う。一。く。え。さ。た。た。き。を。さ。ご。ふ。た。つ。ち。て。あ。や。ふ。一。と。い。う。な。  
り。さ。し。と。ま。ま。い。わ。ち。た。お。あ。う。て。こ。乃。区。の。初。名。抄。後。拾。遺。集。卷。に。見。た。  
ぞ。い。ふ。さ。ご。ふ。た。つ。ち。て。と。い。う。さ。海。な。と。う。け。松。の。産。品。を。見。え。ら。く。い。ひ。  
ら。う。い。ひ。の。書。

こと。の。ん。た。う。い。て。と。あ。う。れ。と。見。え。一。い。う。け。ね。と。乃。ま。う。と。い。え。  
陸。ひ。て。う。う。と。く。一。く。え。を。一。陸。ひ。な。う。と。と。ま。き。ゆ。り。一。い。な。う。  
一。た。え。ふ。れ。と。さ。を。い。と。い。う。と。く。一。う。工。書。  
こと。の。ん。た。う。い。て。と。ま。い。中。文。の。女。房。と。も。の。一。時。の。た。え。ふ。れ。と。さ。を。い。う。く。区。子。

のは緒り物のごとく一とをいりかたのねといふ事なき。また中まをく。さ  
 てその緒り物に女房ともの一とまをを公事とて中まをく。結をせたる  
 此とねほ一とそをふ中まにゆきうを。教通中ねのぬふの使のけう  
 にうくとく一とをぬ一結をく。ほふ吹一なる。あつうぬとく一は  
 まききゆり一とつくをなく。後拾遺集にあり。そこのふたふきをなとま  
 てつくいそ中まのそくくをぬえやとくたり。このまを。備中にえうと疑ひ  
 たり。いふことなき。さそむけふ吹ぬとなく。またその緒り物に女房とより。  
 ぬ系君かして。せそ一とをぬ。ぬ系より。このまが。いあつうを。いあつうを  
 たり。うと一結をく。は。ぬ系のえたる。あつうのまのまを。うのぬ。ぬ屋の女房に  
 いらんせせたるに。ぬ女の家まのえ結ひて。これ中まをく。結をせたるもの

とく結ひて。このねと。乃。うくとく一と。返す。か。結ひ一なる。う。いとほ  
 一う。い。ぬ系公のぬふと。い。ま。結ひ。ほとを。い。とく一と。結と。ぬ。あ。の。と。く  
 一と。結を。く。を。う。け。て。け。ふ。と。く一と。う。結。あ。つ。う。ぬ。と。い。ふ。ま。を。く  
 倫子  
 とのうと。ゆり。の。ほり。と。ま。ぬ。ら。ん。に。ほ。う。い。の。君。に。あ。つ。う。一。と。ぬ。と。ま  
 ぬ。く。一。と。く。ね。と。を。び。結。ひ。を。く。う。の。命。婦。に。ま。い。人。か。め。も。え。や。結。ひ。う。  
 ちまをく。く。地。を。に。け。け。

友さして。花を飾。情。小。陳。明。系。乃。結。以。伏。友。兼。人。様。倍。増。山。吹。と。ま。た  
 り。い。つ。れ。も。つ。う。を。な。へ。一。と。を。び。結。ひ。この。君。長。徳。二。年。に。生。れ。結。ひ。て。こ  
 と。ハ。十。二。ふ。な。り。結。ひ。ぬ。さ。ま。を。く。う。の。命。婦。を。この。君。の。乳。母。を。く。初。を。ま  
 にと。の。う。と。ね。う。ま。せ。い。ぬ。ぬ。の。よ。命。婦。も。を。う。さ。ぬ。あ。つ。う。い。ぬ。め。を。つ。う。て。つ











三ノ...  
度...  
な...  
類...  
三...  
ナ...  
武...  
ま...  
ひ...  
子...

け...  
う...

一...  
二...  
三...  
四...  
五...  
六...  
七...  
八...  
九...  
十...

主殿女官衣とひととをなす。その小くはるるなり

正月一日。えんをうぐればどうまのいひたすまらひのこととゆふぬ。三日  
抄。ゆふのゆふせはる

寛弘六年正月一日。坊日の。傍にそなり。あめ坊日は。そのひこと  
すをひかきしあをいなり。されは。その日を。そのひに。そのひの  
ゆをゆひて。そのあを。ゆふと。寛弘七年正月。そのあを  
えんを。そのひに。ゆふ。桃葉菜。きにく。小兒戴餅車。玉葉。兼安三  
正一  
余向白房。當腰之小兒。為令戴餅。主人召顯信朝臣。令抱  
出小兒。民部大輔。魚定。取餅。件餅。入手。管蓋。數。檀紙。在。橘。并  
齒固。薄。樣。裹。之。餅。三。牧。也。云々。余置筋。  
起取餅。作。三。牧。取  
之。不。取。益令戴若君頂上三度。云々。兼元。四正。一。有小兒戴餅車。云々。余

直衣冠也。令戴之。作。蓋  
取。之祝詞。官位。女房一人抱兒持餅。蓋一人持劔。先  
取餅令戴。余幸カカ以餅三度當頂畢。則以蓋返給女房。次取橘。觸  
兒頂上。長押打揚。三成。橘。三  
枝。九。七次第如此三度。次取大根。觸兒頂。詞皆如此。  
畢。又打揚筋。手管蓋。數。紅薄樣。二重置之。橘大根。同入之。云々。  
三ケ日料。橘大根等。入拵。積獻之。次不改裝束。見齒固如恒。とるた  
ア。これを。下の。若君。戴餅。の。さ。ゆ。を。な。せ。て。若。ま。の。と。ね。い。や  
り。ま。へ。と。ゆ。ぬ。敷。平。に。さ。り  
こ。と。の。い。ま。を。ひ。え。大。納。を。若。ま。う。け。く。は。い。た。ち。の。白。く。れ。か。お。え。ひ。を  
め。う。さ。ぬ。は。あ。う。ま。地。す。り。の。唐。衣。二。日。こ。う。ま。の。ね。り。を。の。う。れ。り。は。  
こ。う。ま。の。う。れ。衣。い。ろ。す。り。の。と。三。日。い。ろ。あ。や。の。は。く。う。ま。の。う。れ。













らたつまゝとてあぐくくはゆぬるやうたはまてこゆふとらたてを  
あけよとてぬ物ういよそのさけふくひくくかたりさうして  
のあまひさるさなと人かすくれなりうらつとんさひたひつと  
そあぬそのさけとええてそをやふあぬまうつきたたけありにそ  
てをてんはなとまゆすくつゆさういつさうはもとうらめた  
いふたをくすへてさうせあめと人のためーにいつく人うをえん  
うららめくうたえな

せうけいさよとそーがーいう。よを得れらぬのあまひつとにまあしとい  
あまぬのまになしわくさきくさかやあまさす。今ゆふとゆく同。さう  
らまやぬああたりあまひほしちあぬまをなとえたりえんがりい

うふえんをうんとまてつさうゆらぬのこをせうにうくうんとま  
てなげゆあし。さうたなといたあにめてなとあこれなりうひく  
まがのうたやちあへ。数かまきう。まこれま。ま肉竹のまを  
式歌のねとは。ねとらとまうふとさうけさすたてあえたら人のま  
とろくふほひて。うほさいとこあふらとめ。うまをいさくう  
そーとてなうくはあま。さう。はらひた。さう。て。あふえまふふ  
とらなやうたのふとをうけあをゆう。うぬ。あひたひつと。なと  
ほことふさけなり。うちえとたあま。やうとをほう

おとうと。ま肉竹のサナ。う。そめら。いゆえら。あけな。をい。はく  
らひた。ま。さ。て。ま。な。う。ぬ。髪。を。ま。さ。ま。ゆ。ふ。つ。ら。ひ。た。を。い。ゆ。ま。

物をもつてつきをうらへしめ。さき中つたをもちて。新中たり。これぞ式部のねとよき御なり。さうけをう。新中にさう

さうとうの中は。うならしとねもつは。こたひよけん式部

この二人をとらひて。次おまのふたまの御なりぬり

またひよは。千やうなる人のやうたひいとねめりうさ御して。さうさそしく。まとはひとこちたて。たけお。一尺らあまうたりけるを。たちほさるて。ゆり。うほを。うとく。う。あなを。う。の人もとさ。ええて。ゆり。のたちてを。ほす。う。まな

まとは。髪のことなり。ねらほまは。髪のおのヌケスボケたるなり。これまて。おたまの御なり。またひよは。新中にさう。一尺ら。新中にさう

源式部は。たけらねほとふ。たけひやうなを。ほとあて。うほ。こ御やふ。える御。おひとを。う。く。う。たけな。け。まひ。まのさ。う。う。う。う。ふ。人のむねめとねほ。申す。御なり

たけらねほとふ。たけひやうとは。ゆり。おまひ。す。う。ぬ。を。い。よ。う。さ。う。は。サツ。ぱり。と。う。た。う。さ。御なり。これまて。源式部の御なり

小玉清。源なと。ひとさ。け。お。ゆり。ま。ゆ。は。屋上人。此。え。の。こ。は。す。く。な。か。なり。たま。ま。ま。と。ま。え。つ。て。は。う。れ。た。け。れ。と。人。の。御。を。さ。ら。う。の。す。ら。に。う。さ。れ。て。ゆ。り。う。

屋上人のま。肺。く。う。れ。た。人。を。う。と。い。ふ。ま。を。う。た。れ。ま。た。れ。ま。と。い。は。た。ほ。く。れ。人。を。う。て。い。ふ。初。を。れ。と。む。ま。と。い。ふ。ま。を。う。れ。り。と。う。ま。つ。て。い。う。れ。

ちよとていひしとふけあやありていあをにんかんとすれとくかきかき  
 にとさしえいへくつれなむかきしつゆかんとたかへくかきかき  
 いかしきかきかきとていひてかきかきかきかきかきかきかきかき  
 はあひかきかきかきはあきかきかきかきかきかきかきかきかき  
 なくとていひていひていひていひていひていひていひていひていひて  
 あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 ぼろはあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
 ーとていひていひていひていひていひていひていひていひていひて  
 けりーとていひていひていひていひていひていひていひていひていひて  
 なほいとていひていひていひていひていひていひていひていひていひて

てなうたひつとていひていひていひていひていひていひていひていひて  
 やつとていひていひていひていひていひていひていひていひていひて  
 こへとていひていひていひていひていひていひていひていひていひて  
 あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 けりーとていひていひていひていひていひていひていひていひていひて  
 らにたていひていひていひていひていひていひていひていひていひて







ともこのころの昔にふんふんしてさうなうなふんふんしてふりあつた  
 或はつらつらとあつたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんした  
 うちにはなまはつた日池ふんふんたり。つらつたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんした  
 世にふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんした  
 文をうらやまやゆいふんふんして。我はうらやまやゆいふんふんしたふんふんした  
 一ふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんした  
 とせうたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんした  
 はなはなふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんした  
 ふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんした  
 たれふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんした  
 うらやまやゆいふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんした

ふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんした  
 ともこのころの昔にふんふんしてさうなうなふんふんしてふりあつた  
 或はつらつらとあつたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんした  
 うちにはなまはつた日池ふんふんたり。つらつたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんした  
 世にふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんした  
 文をうらやまやゆいふんふんして。我はうらやまやゆいふんふんしたふんふんした  
 一ふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんした  
 とせうたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんした  
 はなはなふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんした  
 ふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんした  
 たれふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんした  
 うらやまやゆいふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんしたふんふんした

























まつは、齊信卿文夫、夫より佳ひて、きんせを清く、ことありけり。むりに、  
とありに、こめ、清くよらうなちは、だめん、清くことたり。又あひて  
たなは、ことやうさうく、この清く、ことええに、ことあな中、だわを  
あは、心乃れらふ中、だにを清く、こと、清く、こと、あは、に、ひ  
うことせ、こと、あな、すて、さう、れ、と、ほのりなる、きま、い、き、も、え  
え、ほろの人は、さう、清く、こと、清く、師らひなりぬれ、こと、な、さ、い、あ  
て、人、も、な、ら、ふ、た、う、な、を、た、ひ、め、う、み、な、う、の、ま、て、な、に、き、え、  
と、の、一、清、く、

わは、中、ま、ま、の、中、ま、ふ、啓、は、こと、や、む、に、中、あ、り、た、ふ、ふ、て、あ、り、女、房、た  
ち、の、あ、り、ふ、こ、め、ま、て、い、く、ひ、な、れ、を、あ、り、ほ、の、り、なる、ま、ま、い、い、を、と、え、く、の、下

に、脱、げ、あ、り、へ、い、そ、う、い、こ、れ、ま、て、中、ま、の、女、房、の、い、く、ひ、な、れ、を、あ、り、ひ、て、次  
の、ほ、ろ、人、は、さ、う、清、く、こと、清、く、と、は、中、ま、な、く、ぬ、ら、清、く、ほ、ろ、の、女、房、ま、は、さ、さ、う  
に、い、く、ひ、な、れ、を、あ、り、と、い、く、な、れ、は、必、ま、の、さ、う、ひ、あ、り、と、な、れ、を、な、う、あ、  
り、こ、に、い、く、あ、な、く、す、て、さ、う、れ、ほ、の、り、なる、ま、ま、い、い、を、と、え、く、と、清、く、と、  
さ、う、ほ、ろ、を、く、と、い、く、清、く、な、と、あ、り、と、い、く、な、り、え、く、師、ら、ひ、の、儀、事、あ、り、こ、あ  
り、中、ま、ま、の、師、ら、ひ、な、り、あ、り、人、は、貴、人、な、り、こ、は、持、姓、い、や、う、ぬ、き、人、の、む  
す、め、を、い、く、へ、ら、に、い、た、う、ふ、世、同、の、あ、り、と、い、く、清、く、な、り、ひ、め、さ、み、な、く、の、ま、  
と、は、ま、ま、い、い、た、う、あ、り、と、い、く、親、親、の、ま、ま、も、娘、君、に、て、う、つ、つ、れ、た、と、い、く、あ、  
に、て、の、ま、ま、り、と、な、り、清、く、師、ら、ひ、の、下、に、と、い、く、ま、あ、り、つ、く、ん、を、脱、く、た、な、る  
へ、い、師、ら、ひ、な、り、ぬ、れ、を、い、ひ、て、は、初、と、の、ま、ま、と、い、く、な、り、あ、な、く、親、に





